

News Letter

2019
October

Vol.25

琉球大学
広報誌



琉球大学
UNIVERSITY OF THE RYUKYUS

<http://www.u-ryukyu.ac.jp/>

Island wisdom, for the world, for the future.

[目次]

●注目！琉大生

- ①教育学研究科 1年次 國吉 滯花さん 表紙
②理学部 1年次 太田 三砂貴さん 02
③法務研究科 2年次 杉本 武さん 03

●研究者紹介 05

戦略的研究プロジェクトセンター
鶴井 香織 特命助教
山極 海嗣 特命助教

●ニューストピックス 09

●留学支援 11

●基金だより 13



注目！琉大生①

國吉 滯花さん

PROFILE

教育学研究科教科教育専攻保健体育専修1年次
嘉手納高校出身

世界4大ミスコンの一つ、「2019ミス・アース・ジャパン」で2位に選ばれた國吉さん。学業では理想の保健体育の先生になるために日々研鑽を積んでいます。

教育実習で現場を目の当たりにし、保健の授業が充実していないと感じたことから大学院への進学を思い立ったそうです。現在の指導教員である遠藤洋志先生の推薦もあって、特別支援の教育が充実した琉球大学で学ぶことを決めたとのこと。

遠藤先生は國吉さんについて、「身体能力が高く、子どもに対するコミュニケーション能力も長けている。何より教師になるという熱意が素晴らしい。特別支援教育の受講は受け入れる先生方の協力もあり叶ったものです」と話します。「ミス・アース」は環境問題を訴えることを目的としており、「SDGsを保健の授業にどう取り入れるかが最近の懸案であり、出場の際に受けた研修が非常に参考になりました」と國吉さんは話しました。

注目!琉大生②

太田 三砂貴さん

PROFILE

理学部物質地球科学科物理系1年次
埼玉県出身

IQ188、5億人に一人の天才としてテレビ番組に出演し、注目を集めました。

高校時代に訪れた沖縄の自然の素晴らしさに感動し、琉球大学への進学を決めたそうです。キャンパスライフではその自然を満喫中です。

子どものころに相対性理論に興味を持ったことから物理学を専攻。将来は、国内外にこだわらず、大学院に進学希望とのことでした。

指導教員の先生は、「興味を持った内容は、授業で習わなくとも自ら進んで考えながら学んでゆく積極性があり、例えば「科学史」にも興味を持ち、学んでいる事柄の背景も併せて知ろうとする意欲が素晴らしい」と話してくれました。太田さんは絵画の創作活動をしており、ギャラリーと契約もしています。「物理学には映像的な思考が必要。どちらの活動も本気で続けてゆきたい」とのことでした。



注目!琉大生③

琉大生 6 名が ウィンドサーフィンで国体出場！



学部・年次	氏名・年齢	代表
医学部 4年次	花田 裕也さん (23歳)	北海道
医学部 4年次	塙 史帆さん (21歳)	沖縄県
工学部 4年次	栗原 湧さん (23歳)	香川県
理工学研究科 1年次	中村 光樹さん (23歳)	長野県
法務研究科 2年次	杉本 武さん (54歳)	沖縄県
OB	青木 佑輔さん (33歳)	群馬県

琉球大学の学生5名、OB 1名が、2019
国体のウィンドサーフィン種目で各出身県
の代表として出場しました！
このことについて、法務研究科 杉本武さん
にお話を伺いました。

記者: 琉球大学はウィンドサーフィンの世界では、
強豪校なんですか？

杉本: 強豪であることは間違いありません。優勝こ
そないものの、必ず出場するという意味では、
サッカーのワールドカップに例えたら、メキ
シコやウルグアイというところでしょうか。(笑)
実は私は以前も琉大の学生でした。1983
年に琉球大学法文学部に入学し、ウィンドサ
ーフィン部の4代目部長を務めました。創部



杉本 武さん 法務研究科 2年次 法務専攻 沖縄県出身

して間もない頃だったのですが、その頃から琉大は強く、私自身、4年次の時にナショナルチームの選手に選ばれました。

記者: 日本代表だったんですか？

杉本: はい。ただ、オリンピックに出場できるのは1名です。2名まで絞られた選考レースの決勝で敗れてしまい、残念ながらソウルオリンピック(1988年)に出ることはできませんでした。

私はそれから海外遠征を重ね、世界ランキングも30位ぐらいまで上がりました。これは当時の日本人最高位でした。

記者: ということは、次こそオリンピック出場ですか！

杉本: ところが、若かったんですね。舐めてたんです。

ワールドカップ2位やアジア勢1位など調子が良く、日本の協会からも、私の帰国スケジュールに合わせて選考レースを開いてくれることとなりました。それで私は、どうせすぐに外国に戻るからと、使用していたヨットの道具を持たずに帰国したんです。日本にあるもので勝てるだろうと。その結果、道具トラブルで予選落ち。1992年のバルセロナオリンピックにも行けませんでした。

このことは、その後の人生にいい勉強になりました。

30歳の時にプロを引退し、いまの会社を起業しました。その後は、ナショナルチームのコーチを務めるなど、選手の育成に努めています。今は私自身というよりも、学生のバックアップができればと思っています。

記者: それでは、今回出場する他の学生の皆さんに、激励のコメントをお願いします。

杉本: 学生には、先代から続く琉大というブランドを絶やさずに頑張ってもらいたいと思います。楽しい部活動も結構ですが、楽しさは横に広がるだけで、縦に繋がってゆくのは強さだと思っています。また、特に医学部の花田さん、塙さんについては、仕事で関係していることもあって指導をしていますが、こういうところで本気になって戦い勝つ経験が、将来素晴らしい医者となることに繋がると思います。

皆さんからもコメントをいただきました。



医学部:花田さん

北海道代表の花田です。

初めての国体なので緊張するとは思いますが、全力を尽くし楽しむことができればと思っています。応援よろしくお願いします。



医学部:塙さん

塙と申します。今回、国体女子ウィンドサーフィン級に参加させて頂くことになりました。自分が沖縄県代表としてレースをする日が来るなんて想像もしていなかったため不安もありますが、現役部員引退を前にこのような貴重な体験が出来る事をとても嬉しく思います。国体出場を持ちかけてくださり、予選でも支えてくださった杉本さんにはとても感謝しています。偉大な先輩方の背中を目に焼き付けて、自分自身も精一杯頑張りたいと思います。



理工学研究科:中村さん

長野県の代表として出場します中村光樹です。

各県の代表として琉大の選手がこんなに多く国体に出場するのは初めての事だと思います。

県の代表としてだけでなく、琉大の選手の中でも切磋琢磨しながらいい成績を残せたらと思います。応援よろしくお願い致します。



OB:青木さん

群馬県の代表として出場します青木です。

今回、琉大の選手がこんなに多く国体に出場できることは、一OBとして大変嬉しく思います。

私自身も良い成績を残せるよう精一杯頑張ります。応援の程宜しくお願い致します。



工学部:栗原さん

香川県代表の栗原です。

今回の国体は琉球大学の関係者が多く集まる珍しい機会ということで、国体でも琉球大学の中でも良い結果を残せるように楽しんでレースしたいと思います。





カダヤシはグッピーに交尾され駆逐された

鶴井先生はカダヤシとグッピーについて研究をされたとのことですが、それはどのような研究ですか？

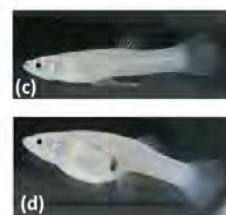
外来種がどのように元々いた種を滅ぼしてしまうかのメカニズムを明らかにしました。沖縄の川には元々メダカがいましたが、蚊の防除のために1930年前後に北米原産の小魚カダヤシを放した結果、在来のメダカに取って代わる形でカダヤシが分布を広げていきました。さらに1970年代のペットブームの際に多くのグッピーが川に逃がされたことにより、現在はグッピーとカダヤシの間で競争が起こりカダヤシが滅ぼされつつあります。その理由を調べたところ、グッピーとカダヤシが交尾した際に、グッピーに交尾されたカダヤシは子を残すことができないことが分かったのです。逆にカダヤシに交尾されたグッピーは影響がなく、普通に子(グッピー)を残すことが分かっています。



カダヤシの稚魚

なぜこの研究をしようと思ったのですか？

私が沖縄に来たのが6年前で、本土ならメダカがいるような川にグッピーがいて驚きました。本などで調べるとメダカがいたところにカダヤシが入り、その後グッピーに置き換わった現象について書かれていたので、なぜこのような現象が起こったのかを調べたら面白いと思ったのです。また、元々の出身研究室では、異種間で交配した結果として一方が絶滅したり数が減ったりする「繁殖干渉」の研究が行われていましたが、研究対象はタンポポなどの植物や昆虫でした。魚ではまだ誰も研究していませんでした。ちょうどいい材料が沖縄にあるので興味を持ってくれた2名の卒論生と研究を進めました。



類似するグッピーとカダヤシのメス
(a) グッピーのオス
(b) グッピーのメス
(c) カダヤシのオス
(d) カダヤシのメス

この研究はどのように発展させる予定ですか？

この研究の結果、外来魚が元々いた魚を滅ぼす理由は食べるだけではないことが分かりました。つまり、グッピーのオスの繁殖行動をカダヤシの駆除に応用できる可能性があるのです。

私は以前、沖縄県のウリミバエなどを防除する部署(沖縄県病害虫防除技術センター)で研究員をしていました。放射線などで不妊化したウリミバエのオスを放つと、野生のウリミバエのメスが子を残さなくなります。それと同じでグッピーのオスを放つと、カダヤシのメスが子を残さなくなるのです。ただしグッピーも外来種。増えすぎると生態系を壊します。そのためオスだけ放ってグッピーの子供も生まれないようにするというアイデアも必要です。



シロオビアゲハが毒蝶を真似するときの条件

もうひとつの研究について教えてください。

シロオビアゲハの擬態について研究しています。擬態というのは生き物が敵から身を守るための戦略。シロオビアゲハは毒があるベニモンアゲハに擬態することで、鳥から食べられないよう身を守っています。しかし全てのシロオビアゲハが擬態するわけではなく、毒蝶に似ないものもあるのです。擬態すれば食べられなくなるのに、何故全てのシロオビアゲハが擬態しないのかというと、擬態するものが多過ぎれば嘘(実は毒がないこと)が天敵である鳥にばれてしまうからなのです。

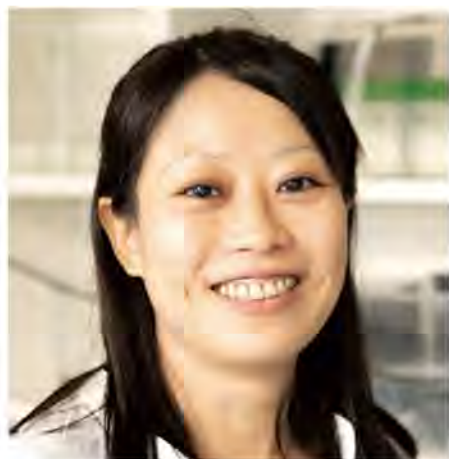


どのくらいの割合で擬態した蝶が生まれるのでしょうか。

それは毒蝶(ベニモンアゲハ)がその島に分布する数により割合が変化します。毒蝶が多い島では擬態する蝶も多くなるのです。本物が少ししかない島では擬態する蝶も少ないのです。沖縄県の5つの島を使い、毒蝶の多い島、少ない島でどのくらいのシロオビアゲハが擬態するか、卒論生・大学院生と一緒に調査・研究しました。戦略センターで出会ったゲノミクス解析支援チームにDNA解析の手ほどきをしてもらい、蝶のDNAを解析。数学的な解析を行なったところ、家系は関係なくその島にいる毒蝶が多いほど擬態する蝶が多くなることが分かりました。近年は沖縄諸島で毒蝶が増えて来ているので、擬態する蝶も増えています。しかし増えすぎると嘘を見抜かれるため、少数派有利の法則が働き擬態しないものも増えてバランスが取られます。色々な生き物には増えすぎると減るしくみがあり、その逆もある。その結果この世の中は多種多様なのだと考えられています。

今後の展開は？

沖縄ならではの自然環境を活かし、いろいろな生き物を対象とした研究をすすめたいです。特に外来種の研究を発展させて、世界中で生態系を破壊している世界の侵略的外来種ワースト100に選ばれているカダヤシが生態系に害を及ぼしてしまうメカニズムについて研究したいと思っています。現在の研究ではカダヤシのメスが悪い物質を放出して、同種のメスの繁殖を邪魔することがわかっていますが、その物質については特定されておらず、他の種にどのような影響が出るかもまだ解明されていないので、その物質について調べていきたいです。



戦略的研究プロジェクトセンター教員

鶴井 香織 (つるい かおり)

PROFILE

【略歴】 2011年 京都大学農学研究科を終了し、博士(農学)を取得

【専門分野】 昆虫生態学 現在は昆虫に限らず生態学全般を研究

研究者紹介



山極先生は考古学の専門で南琉球最古の土器について調査したとのことですが、それはどのような研究なのでしょう？

そもそも土器というのは粘土を成形し火で焼いて作った器で、発掘された土器の形や模様などの特徴を調べるとそこで暮らしていた人たちの精神的な観念や好み、食生活といった文化的要素が見えてきます。沖縄の先史時代の考古学でも土器は注目されていて、南琉球では近年、従来最古とされた4800年前の土器文化を更に遡る1万年前の土器が出土したことで注目が集まりました。しかし、その土器は小さな破片ばかりで、全体像や模様は全く分からず、今までの外見的特徴を分析するというやり方では研究が難航しました。そこで戦略センターで出会った方々と相談したところ、理化学的な分析や統計学的な解析が加わり、粘土の素材の特徴や、使い方、加工した痕跡を読み取るというプロジェクトが誕生しました。形や模様はわからなくても素材の使い方、加工する技術がどの地域・どの時代と似ているかを比べれば歴史的・地域的な繋がりが見える可能性があり、分析の結果南琉球で使われた土器はその後の時代に出てくる土器と素材の利用が似ていることが分かりました。今後もっと広い地域時代と比べたら更に詳細に分かってくるはずです。



南琉球最古の土器の謎を解明

戦略的研究プロジェクト
センター教員

山極 海嗣

(やまぎわかいし)

PROFILE

【略歴】

2010年に京都の龍谷大学を卒業
大学では東洋史学専攻。
卒業後は琉球大学の大学院に入り、2016年に学位を取り琉球大学に就職。
元々歴史学を専攻していたが、より人類の本質やメカニズムに迫りたいと思い行き着いたところが考古学だった。

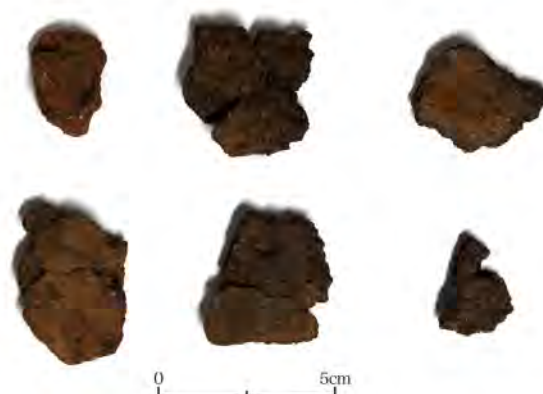
【専門分野】

専門分野は考古学や人類学

戦略的研究プロジェクトセンターでの出会いが、考古学の研究の発展に繋がったのです

考古学は所謂文系の学問ですが、今回のプロジェクトでは分析化学、統計学を専門にされる理系の方と一緒に行いました。この分析では人の目では追いきれないたくさんのデータが得られるので、統計という数学的なやり方で傾向を導き出していきました。これまでの自分の研究では馴染みのないやり方でしたが、色々な人たちと組んでお互いに意見交換しながらひとつの研究をしたことで大きな発見がありました。1万年前というと沖縄では旧石器時代、日本では縄文時代です。これまで南琉球の土器は台湾がルーツと言われてきましたが、台湾で土器が使われるようになったのは6500～5000年前のこと。1万年前はまだ台湾で土器は確認されていません。今回南琉球の土器の特徴を分析できたことで、従来の説を再検証へ導く発見となりました。戦略的研究プロジェクトセンターでの様々な研究者との関わり合いはとても新鮮です。最初文系は自分しかいなく緊張しましたが、鶴井さんの研究を聞いて人間でも同じかもしれないと思うと面白くなってきました。雑談の中から、本格的な研究に展開することもありました。それぞれ個別の分野や組織にいる状況では1本の太い幹は伸びるけれど、そこからなかなか隣の分野への枝葉は広がりません。しかしここに来て色々な人や分野と接触することで枝葉がどんどん開いていく。非常にいい効果を生んでくれたと思います。この戦略的研究プロジェクトセンターには助教や学生、ポスドクや学生アルバイトなど様々な人が出入りしていて、勉強会やセミナーを開くこともあります。

専門外なことを勉強する必要がありますが、その分野自体を掘り下げ発展に繋がっています。我々はその恩恵を受けていると感じます。



南琉球の約1万年前の土器片（沖縄県立埋蔵文化財センター所蔵）

学長のリーダーシップのもと「とんがり研究」を担う研究者たち

琉球大学では「地域特性に根ざした国際性豊かなアジア・太平洋地域の卓越した教育研究拠点大学」および「地域とともに、豊かな未来社会をデザインする大学」を長期ビジョンとして掲げ、学長がリーダーシップを取り、琉大の特性や強みを生かす、《とんがった研究》を推進しています。平成27年には「戦略的研究プロジェクトセンター」（略して戦略センター）を設置し、学長が指名した7人の教授（研究グループの主宰者）と若手研究者（特命助教）が同じ空間でそれぞれの研究を進めながら交流を図ることで、分野横断型の融合研究のさらなる推進を図っています。今回紹介した鶴井先生は農学部亜熱帯農林環

境科学科の辻瑞樹教授、山極先生は言語学の専門家である島嶼地域科学研究所の狩俣繁久教授の下で特命助教として研究を行なっています。



UR Topics

[4/1]

公式ホームページをリニューアルしました！
漫画「琉大創立物語」を発刊しました
「THE世界大学ランキング日本版2019」にランクイン！

HPリニューアルQR



漫画「琉大創立物語」QR



世界大学ランキング最王手である英国のタイムズ・ハイヤー・エデュケーション（THE）は、「THE世界大学ランキング日本版」の結果を発表し、琉球大学は、昨年より10位アップの総合89位にランクインしました。



[6/21]

— Society5.0時代の観光を創造 —
IoT・ICT技術による観光支援のための五者間協定を締結

本学工学部附属地域創生研究センターは、IoT・ICT技術を活用した新たな観光スタイルを創造し、観光客の満足度向上と効果的な観光施策実施に貢献するため、株式会社コロプラ、株式会社OTSサービス経営研究所、沖縄セルラー電話株式会社、沖縄セルラーアグリ&マルシェ株式会社と五者間業務協力協定を締結しました。

- ・沖縄本島全体を対象にした大規模な属性別観光流動調査
- ・IoT技術を活用した一般道における旅行時間計測
- ・複数のビッグデータを活用した国内外観光客動態調査
- ・世界自然遺産に向けた観光管理計画
- ・観光政策や観光事業者のEBPM（証拠に基づく意思決定）など



[5/22]

学長記者懇談会を開催しました



今回は初めてとなる懇談会では、今年度より第17代学長として就任した西田睦学長の所信の表明や、新役員の紹介などが行われました。テレビ局2社も含め、県内報道機関6社が参加し、和気あいあいとした意見交換が行われました。

[6/27]

琉球大学における
SDGsへの取り組みについて

本学は、建学の精神である自由平等・寛容平和を継承・発展させた3つの基本理念、すなわち「真理の探究」「地域・国際社会への貢献」「平和・共生の追求」のもと、「地域と共に豊かな未来社会をデザインする大学」でありたいと願っています。

2015年9月の国連サミットにおいて採択された「持続可能な発展のための2030アジェンダ」に記載された持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals; SDGs）は、「Leave no one behind（誰一人取り残さない）」という考えのもと、深刻化する環境や貧困の問題をはじめとする地球規模の課題に全世界が取り組むことによって、より良い国際社会の実現を目指すもので、本学もその趣旨に深く賛同するものです。本学は、SDGsの達成に貢献する活動に取り組み、様々なパートナーと積極的に連携し、持続可能な社会の実現に向けて行動します。



国立大学法人琉球大学
学長 西田 睦

[6/16]

第1回

琉大未来共創フォーラムを開催



第10回ロッキーマンチャレンジ賞にピアニストとして活躍されている大嶺未来様が受賞され、その授賞式と記念トーク・リサイタル（第1回 琉大未来共創フォーラム）を琉球新報ホールにおいて開催いたしました。

[7/11]

琉大カガク院 受講生2名が 国際科学フォーラムで最優秀賞を含むダブル受賞

未来の科学者のためのリーダーシップを育成することを目的として、「The 2019 Asia-Pacific Forum for Science Talented」(主催:台湾政府教育部・台湾師範大学)が、令和元年7月6日(土)～7月11日(木)に台湾師範大学(台北市)で開催され、アジア及び環太平洋の16の国や地域から選出された13歳～16歳の約100名が科学的な課題に取り組みました。日本代表6名のうち、本学の次世代人材育成事業のひとつとして実施している「琉大カガク院」の受講生である小泉 創世(そら)さん(球陽高校2年)と造倉 そらの さん(向陽高校2年)が選抜され、活動成果の最優秀2チームに贈られるGrand Awardをそれぞれが受賞しました。



[8/4]

プロボクシング大会 「MUGEN挑vol.12」開催

プロボクシング大会「MUGEN挑vol.12」が多数の来場者のもと、本学第一体育館で開催されました。本学では3回目の開催となりました。今回の大会は、主催する平仲ボクシングスクールジムの平仲信明会長の厚意で、チャリティイベントとして位置づけられ、来場者からの善意の募金と収益の一部についてを、大学コンソーシアム沖縄(子どもの居場所ボランティアセンター)と本学の結転生(ゆいまー)基金へご寄附いただきました。



[9/20]

高等教育の修学支援新制度の 支援対象機関として認定されました



修学支援制度QR

[10/1]

琉球大学同窓から開学70周年 記念事業に寄附贈呈

同窓会では、70周年事業募金を開始した昨年度から同窓会員向けに募金活動を実施しています。それにより同窓会員からは既に多額の寄附をいただいておりますが、今回は同窓会としての寄附ということで、金200万円が贈呈されました。



[9/23]

本学学生2名が日本魚類学会で発表賞受賞

2019年度日本魚類学会年会で行われた研究発表に、琉球大学から6名の学生と8名の卒業生が参加し、理工学研究科博士後期課程1年次の福地伊芙映(ふくち いふえ)さんが最優秀口頭発表賞(2年連続受賞)、理工学研究科博士後期課程1年次の林希奈(はやし さな)さんが優秀口頭発表賞(2回目)を受賞しました。



留学支援

琉球大学卒業生から本学の国際交流事業推進のためにいただいたご寄附による2つの琉球大学基金留学支援事業をご紹介します。



琉球大学岸本遺贈基金

琉球大学5期卒業生で米国在住の岸本ファミリー個人慈善基金創設者・岸本正之氏が多摩子夫人と共に、地球自然環境保全に向けた教育・研究活動やグローバル人材養成等を目的として設立されました。

当基金は、米国にある岸本ファミリー個人慈善基金で管理・運用され、毎年20～50万ドルを基金元金に積み増し、2029年までに583万ドル(1ドル=120円換算で約7億円)規模のエンガウメント基金となる予定です。琉球大学へ運用益による毎年のご寄附をいただいております、これまでに下記の事業を実施しました。

- 交換留学支援制度により海外協定校へ留学する学生に対する支援
- 外国人留学生(特に太平洋島嶼地域から受入れ)に対する支援
- グローバル人材育成事業により海外の教育研究機関等に派遣する女子大学院生に対する支援



琉球大学QUEST基金

(QUEST : Quality Education and Support for Tomorrow)

本学卒業生から匿名でいただいた3億円の寄附金を主な原資とした基金です。

未来へつなげる学生の探究心の向上に資する教育研究活動推進に必要な事業支援のため、次の各種サポート事業を行い、多様な考えや価値観を許容し、寛容で柔軟な思考能力を持ったグローバル社会で活躍できる学生育成の支援を行っています。

- 短期交換留学生(協定派遣)の生活サポート
- 短期派遣研修プログラムサポート
- 大学院学生の海外研究サポート
- 短期交換留学生(協定受入)の生活サポート
- 海外留学準備サポート(語学能力試験費用の助成)
- 学生生活の支援等

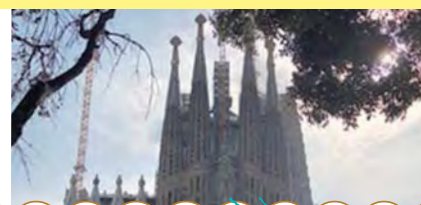




これまでの 派遣先交流協定校

(アメリカ) ハワイ大学、フォートルイス大学
(フランス) トゥルーズ・ジャン・ジヨレス大学
(スペイン) バルセロナ自治大学
(ドイツ) ハイน์リッヒ・ハイネ・デュッセルドルフ大学
(トルコ) パムツカレ大学
(タイ) コンケン大学
(インド) マダン・モハン・マラビヤ工科大学
(韓国) 済州国立大学
(オーストラリア) キャンベラ大学
(マーシャル諸島) マーシャル諸島短期大学

※その他、協定校以外の
短期研修派遣プログラムも実施しています。



法文学部・総合社会システム学科
留学プログラム

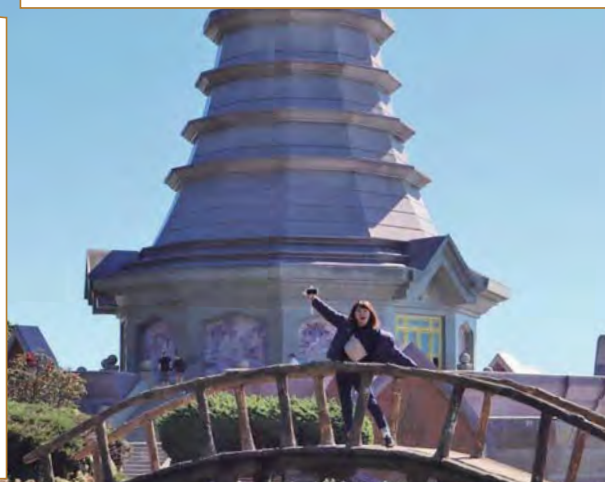
ハワイ大学及び行政・司法機関における英米法研修

誰も何かが一歩を踏み出すには勇気が必要だと思います。しかし、その一歩を踏み出すことで確実に自分の経験や考えが変わります。今の自分がどう行動するかは、これからの未来の価値観の形成に繋がっています。大げさだと感じるかもしれないけれど、自分の行動ひとつが未来に強く影響してくるという体験ができたことは、私にとってとても価値あることでした。なにか行動を起こすチャンスがきたら、迷わず踏み出してほしいと思います。



観光産業科学部・産業経営学科
留学プログラム
東南アジア観光開発研修プログラム

私の周りには、「一生日本から出ないから、英語など勉強する必要がない」と言う人たちがいました。また、様々な事情で海外留学を諦める人もいました。いずれ日本で就職したとしても、今日ではインターネットの発達、海外企業との競争など、国外に目を向けなくてはならない現状があります。その中で成長するためには、厳しいことにも挑戦していかなくてはならないと思います。琉球大学では、その機会を手助けしてくれる制度も整えてくれています。せっかく機会があるなら、やらないのはもったいない気がしませんか。大人になってからもチャレンジはできますが、学生のうちに挑戦することに意味があると思います。



相談先
案内

留学についてのご相談は、学生部国際教育課まで！

TEL: 098-895-8761 E-mail: outbound@acs.u-ryukyu.ac.jp



大学基金たより

琉球大学では、学生支援・教育研究活動を充実し、地域社会・国際社会へ還元していくことを目的とした琉球大学基金を設置し、広く社会からいただいた寄附金による支援事業を実施しています。

本基金の趣旨にご賛同いただき、格別のご支援を賜りますようお願い申し上げます。



第17代 琉球大学長
西田 睦

[基金による事業]

使途を特定せず大学全体への支援となる一般基金と、前ページの留学支援特集で紹介した岸本遺贈基金、QUEST基金を含む6つの特定基金事業を実施しています。

琉球大学一般基金

教育・研究等の大学運営全般のために

- 学生の課外活動
- 研究活動への支援
- 社会との連携事業
- 施設・設備整備事業等



琉球大学結転生(ゆいまーる)基金

社会的課題である貧困の連鎖を防ぐために



沖縄県における子どもの貧困問題は、世代を超えて更なる子どもの貧困を引き起こす「貧困の連鎖」となっています。沖縄県教育・学術界を担う琉球大学として、この課題解決に向け地域とともに取り組んでいます。

- 母子家庭の母親の雇用創出
- 母子家庭の子どもの就学指導

琉球大学修学支援基金 税額控除対象

経済的に修学が困難な学生のために



経済的に修学が困難な学生への支援として給付型奨学金等を実施しています。

- 授業料、入学金又は寄宿料の全部又は一部を免除する事業
- 学資金を貸与し、又は支給する事業等

琉球大学うない女性研究者・リーダー育成基金

男女共同参画を推進し、次代を担う女性人材のために



- 女子大学院生、学生への育成・支援
- 若手女性研究者の研究力強化への支援
- 女性研究者が安心して働ける職場環境の整備等

沖縄健康医療推進基金

沖縄の健康医療発展のために



令和6年に西普天間住宅地区跡地へ移転予定の医学部及び同附属病院において、より快適で安全な医学教育・研究、診療環境の整備等の事業を実施しています。

[寄附方法]

ご寄附の際には、基金の名称を寄附目的に沿ってお選びください。

なお、本基金へのご寄附は、「寄附金控除」の対象となり、個人は「所得控除」、法人は「全額損金算入」が適用になります。

オンラインによるご寄附

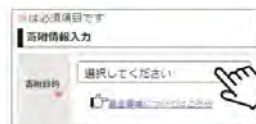
STEP 1

琉球大学基金Webサイトより、「寄附をする」をクリック。
<http://www.kikin.jim.u-ryukyu.ac.jp/>



STEP 2

「寄附情報入力画面」から、寄附先の基金をお選びいただき、引き続き寄附情報をご入力の上、クレジットカードによる決済をご利用ください。



※定期的(毎月、年2回、毎年)に定額をご支援いただける継続寄附も承っております。

振込によるご寄附

STEP 1

琉球大学基金室へメール又は電話でお問い合わせください。右記の払込取扱票(振込用紙)を郵送いたします。



STEP 2

払込取扱票の通信欄に加え4票ともにお名前、入金額等の必要事項をご記入のうえ、ゆうちょ銀行・郵便局又は指定振込先金融機関の本支店窓口にてご利用ください。

※所定の用紙以外からの振込は、寄附先の確認等に支障をきたすため、上記の払込取扱票をご利用いただきますようお願い致します。

[芳名簿]

琉球大学基金へ多大なご支援を賜り、誠にありがとうございます。本号では、平成30年1月から令和元年8月までに、琉球大学基金へご寄附いただいた際に同意をいただいた皆さまのご芳名(五十音順・敬称略)を掲載させていただきます。今後とも琉球大学基金をよろしくお願い申し上げます。

法人

株式会社MUGEN

岸本ファミリー個人慈善基金

琉球大学生生活協同組合

個人

伊澤 雅子
植田 聡
川村 篤
桐島 孝
金城 福康
小池 真由美

木暮 一啓
小峰 長政
佐野 文子
篠原 里美
志茂 和音
下地 敏洋

菅井 尚子
杉山 克己
平良 美奈
高橋 望
高山 和則
武田 昌則

田里 友治
土井 歩
中村 拓郎
楠城 治和
西田 睦
新田 早苗

花城 梨枝子
丸野 雄二
本村 真
屋良 さとみ
吉本 靖

お知らせ

欲しい未来へ、寄付を贈ろう。



寄付月間(Giving December)は、NPO、大学、企業、行政などで寄付に係る主な関係者が幅広く集い、寄付が人々の幸せを生み出す社会をつくるために、12月1日から31日の間、協働で行う全国的なキャンペーンです。琉球大学も賛同パートナーとして参加しています。

詳細はコチラをご覧ください。

寄付月間



お問い合わせ先



琉球大学基金室

〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町字千原1

☎098-895-9013

✉ kikin@acs.jim.u-ryukyu.ac.jp

琉球大学基金



琉球大学開学70周年記念事業募金

2020年、琉球大学は開学70周年を迎えます。この記念すべき節目にあたり、琉球大学の発展を期する事業として、また地域社会の発展に貢献する事業として「琉球大学開学70周年記念事業」を実施いたします。この事業を通じて、琉球大学は地域社会や国際社会で活躍できる人材の育成に取組むとともに、豊かな社会を皆さまと共創して参ります。

何卒、趣旨にご賛同くださり、格別のご支援並びにご協力を賜りますようお願い申し上げます。



右) 国立大学法人琉球大学 第17代学長 西田 睦
左) (公財)琉球大学後援財団理事長 (株式会社琉球銀行代表取締役会長) 金城 棟啓
中) 琉球大学同窓会 会長 (沖縄石油ガス株式会社代表取締役会長) 幸喜 徳子

大学発ベンチャーの支援



未来の起業家を
育てる

国際交流シンポジウムの開催



琉球大学から
アジア・太平洋
地域へ

地域連携の企画展



地域の活性化
企業と琉球大学の
連携

奨学・教育研究・国際交流 奨励事業の拡充



社会に貢献できる
人材の育成

記念式典及び記念誌の発刊



キャンパス環境の整備



自然あふれる
憩いの場の
遊歩道

当記念事業へのご寄附は、税制上の優遇措置が受けられます。個人からのご寄附は、確定申告の際に「税額控除」「所得控除」のどちらか控除額の有利な方をお選びいただけます。

法人からのご寄附は、一般寄附金の損金算入限度額とは別に、特別の損金算入限度額が設けられており、この分には法人税が課税されません。

【募金方法】口座振込によるご寄附が利用いただけます。所定の払込取扱票(振込用紙)がお手元がない場合は郵送いたしますので、下記へお問い合わせ下さい。

お問い合わせ先

※土・日・祝祭日を除く
午前10時～午後5時まで

■ 公益財団法人 琉球大学後援財団(募金推進本部事務局) 〆098-895-5793
■ 国立大学法人 琉球大学 基金室 〆098-895-9013
■ 琉球大学同窓会 事務局 〆098-895-8039

編集後記

10月1日より、2名の新採用職員が広報係にやってきました!

3名体制ですので、新しく生まれ変わった気分です。今号で取材させていただいた学生や研究者の皆さんは魅力あふれる人ばかりで、自分たちも負けないよう、活気ある広報をしようと心新たに思いました。

以下は新人コメントです。

「初めまして、内間航と申します。広報の仕事は覚えることが多くで大変ですが、新しい発見がたくさんあります。楽しみながら頑張りたいと思います」

「初めまして、知花安里と申します。より読みやすい広報誌作りに努めて参りますので、引き続きNewsLetterをよろしくお願いします」

総務部 総務課 広報係 松本 琢也

News Letter

Vol.25

2019年10月発行 琉球大学総務部 総務課 広報係



琉球大学
UNIVERSITY OF THE RYUKYUS

〒903-0213
沖縄県中頭郡西原町字千原1番地
TEL.098-895-8175
kohokoho@acs.u-ryukyu.ac.jp
http://www.u-ryukyu.ac.jp/